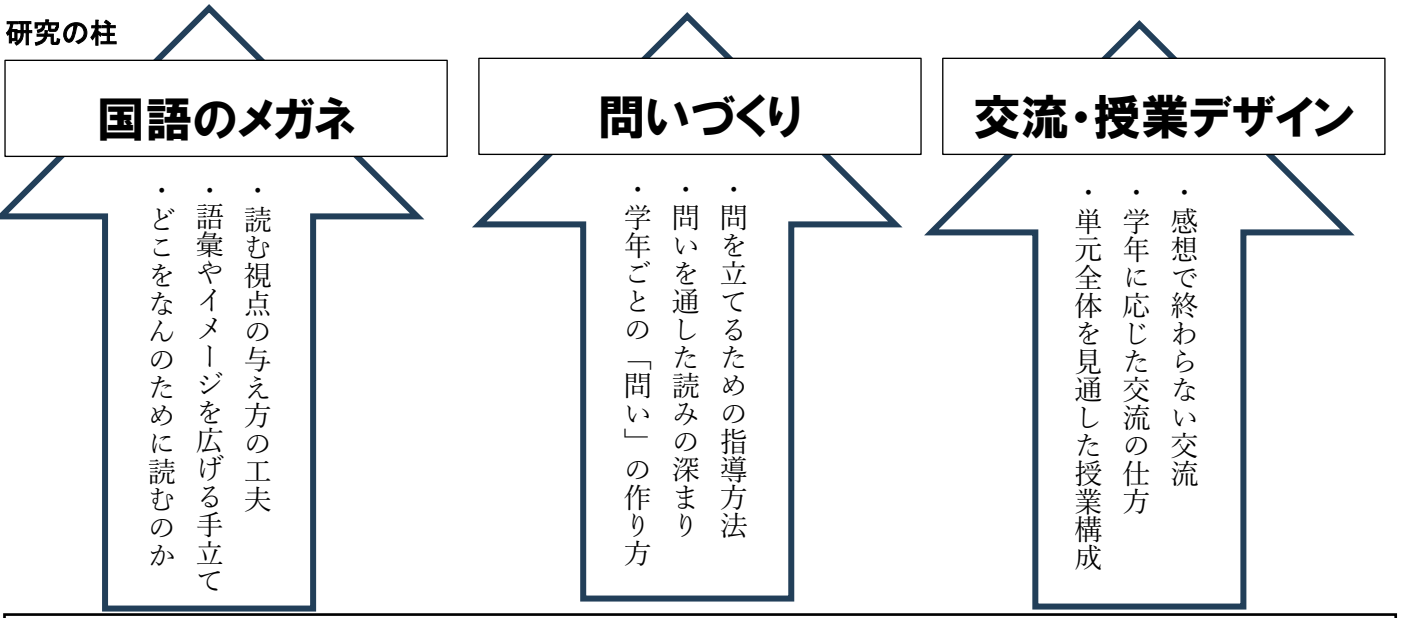
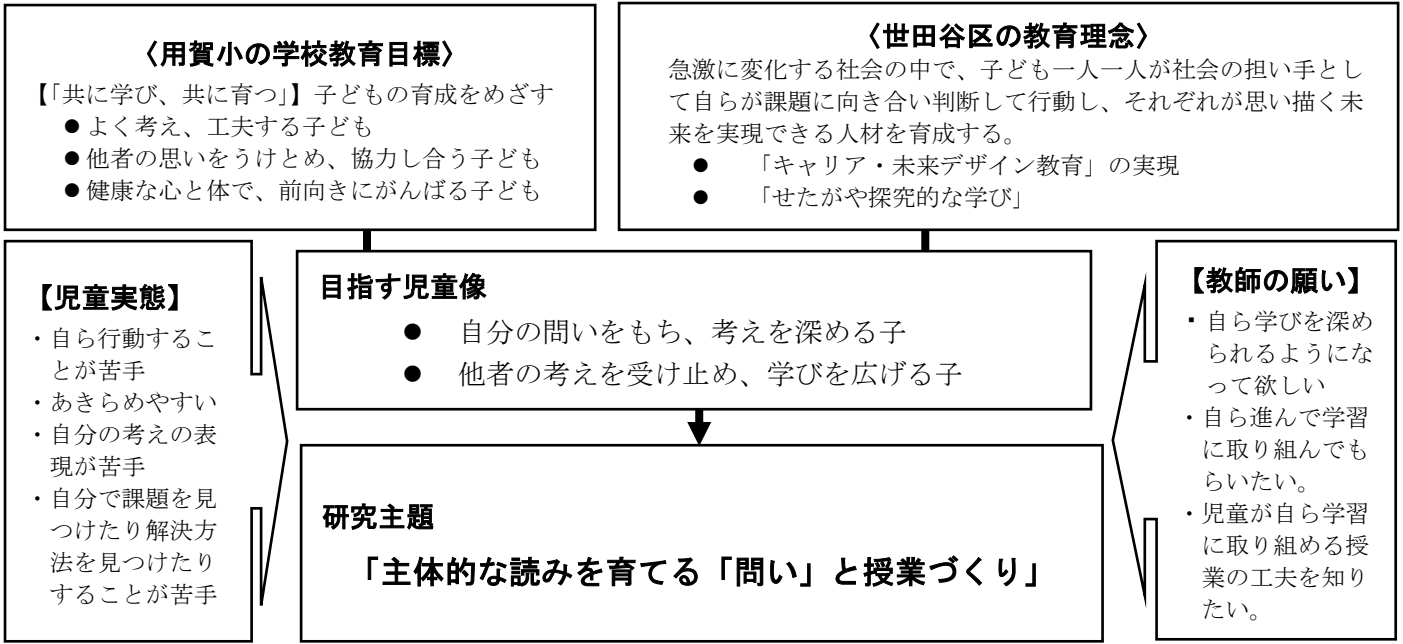


令和8年度 世田谷区立用賀小学校 研究構想図




**研究仮説**

「問い」と「読みのスイッチ」を明確にした授業づくりを行うと、子どもたちは物語を主体的に読み、多面的に考えを深められるようになるだろう。

**「問い」と「授業づくり」で育む、主体的な読みの学び**


現状の課題と目指すゴール

**児童の現状：自発的な課題解決への苦手意識**



児童の現状：自発的な課題解決への苦手意識  
あきらめやすく、自ら問いを見つけ、解決する方法を見つけることが苦手な傾向にある。


**目指す姿：問いを持ち、他者と学びを広げる子**



目指す姿：問いを持ち、他者と学びを広げる子  
自分の考えを深めつつ、他者の意見を受け止めて学びを広げられる児童を育成する。


研究を支える「3つの柱」

柱1：読みのスイッチ




**柱1：読みのスイッチ**  
読む目的を明確にし、視点の与え方や語彙・イメージを広げる手立てを工夫する。

柱2：問いづくり



**柱2：問いづくり**  
学年に応じた問いの立て方や、思考を深めるための「問いの深まり」を追求する。

柱3：交流・授業デザイン



**柱3：交流・授業デザイン**  
感想で終わらせず、単元全体を見通した学年に応じた交流の仕方を構成する。

項目	内容
教師の願い	自ら学びを深め、進んで学習に取り組める授業の工夫を知りたい。
研究仮説	「問い」と「読みのスイッチ」を明確にすれば、物語を主体的・多角的に読めるようになる。